

妊孕性温存卵子・胚凍結融解後の ART 治療成績について

幸池明希子¹、佐藤学^{1,2}、森本義晴¹

¹医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

²医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

【目的】近年、がん生殖医療ネットワークの設立により AYA 世代のがん患者に対して妊孕性温存についての選択肢が提示できるようになってきた。当院でもがん治療前に妊孕性温存目的で卵子と胚凍結を行っている。今回、凍結後に ART 治療をした成績について検討した。

【方法】2015 年 9 月から 2022 年 12 月までに妊孕性温存を目的として当院で凍結した卵子(81 症例 96 周期)・胚(51 症例 65 周期)の融解後の ART 成績について後方視的に検討を行った。

【結果】凍結卵子の融解率は 3.7% (3/81)、凍結時の平均年齢は 32.0 ± 0.8 歳(14~46 歳)、平均凍結数は 6.7 ± 0.5 個(1~28 個)、平均凍結日数は 879 日(120~1782 日)であった。凍結胚の融解率は 37.3%(19/51)、凍結時の平均年齢は 34.2 ± 0.5 歳(24~43 歳)、平均凍結数は 3.4 ± 0.2 個(1~11)、平均凍結日数は 889 日(43-2027 日)であった。凍結卵子由来胚での妊娠例は 2 症例で、凍結卵子を融解後、顕微授精を実施後に胚凍結し、HRC 周期で移植後に妊娠した。1 症例は採卵と同時に凍結卵子を融解して顕微授精を実施し、凍結卵子由来胚は移植できなかったが新鮮胚移植で妊娠に至った。融解胚移植は 19 症例 38 周期に実施し、妊娠率は 31.6% (12/38) であり、7 症例で出産、2 症例で流産、3 症例が妊娠継続中である。出生児 7 児のうち 1 児が先天性胆道閉鎖症であった。

【結論】妊孕性温存のために卵子や胚を凍結した AYA 世代、特に未婚女性の卵子凍結の場合は、原疾患治療後に ART 治療が開始するまでには長期保存が必要となる。そのため、妊孕性温存のために胚凍結した既婚女性よりも融解利用率が顕著に低率であった。今回、妊孕性温存のために凍結した卵子、胚を用いての ART 治療成績についてのデータ数はまだ十分とは言えないが妊孕性温存の可能性が示された。今後がん生殖医療ネットワークとの連携を図り、妊孕性温存についての必要性を発信していくことが不可欠であると考えられた。